

ベラドンナ系デルフィニウムの生育開花特性

F₁種は開花期が揃い切り花品質優れる

1. はじめに

ベラドンナ系デルフィニウムについて固定種及び近年発表されたF₁品種を供試して促成栽培における品種別の生育開花特性を明らかにした。

2. 試験方法

固定種として4品種、F₁種として2品種を供試した。供試個体数は16株2反復とした。

各品種とも1998年7月10日は種、10日間催芽後、クーラー育苗(昼間20℃、夜間10℃)を行った。9月22日に株間20cm、条間20cmの4条で定植し、冬期最低温度を12℃、日長延長法で16hr、日長で管理した。基肥はN、P₂O₅、K₂Oの各成分を0.7kg/a、追肥は液肥で2回施用した。

調査は、抽だい、発らい、開花及び切り花品質について1999年6月21日まで行った。

3. 試験結果

(1) 1番花収穫時期

「ベラドンナインプ」、「クリブドンビューティー」、「スカイプリズム」及び「シープリズム」がほぼ同時期で早くなり、「カサブランカ」及び「ベラモーサムインプ」ではやや遅れた。また、収穫期間についてはF₁種

で固定種に比べて集中することがわかった。

(2) 切り花品質

「ベラモーサムインプ」、「カサブランカ」及び「シープリズム」でボリュームのある切り花が得られる傾向にあった。また、同色の固定種とF₁種との切り花品質では、F₁種の方が優れた。

(3) 収穫本数

「クリブドンビューティー」及び「スカイプリズム」で11.1本/株となり多かった。また、F₁種においては開花遅延株の発生は認められなかったが、固定種では認められた。

4. おわりに

この結果より、ベラドンナ系デルフィニウムは、固定種では「ベラドンナインプ」及び「クリブドンビューティー」の両品種は、開花が早く多収であることがわかった。「カサブランカ」及び「ベラモーサムインプ」は収量的には少ないがボリュームのある切り花が得られるため、収穫本数を増やす枝切りを併用することが適当であると考えられた。

F₁種については、収穫期が揃い、切り花品質も良いため有望であると考えられた。

(園芸部 上山茂文)

表1 1番花の収穫期と切り花品質

品 種 名	花色	収穫日 (月、日)	切り花 長(cm)	切り花 重量(g)	側枝数	花数**
ベラドンナインプ*	水色	11.17± 8.6	86.6	39.9	5.2	7.8
クリブドンビューティー	水色	11.16± 6.0	84.8	37.8	5.3	8.3
スカイプリズム(F ₁)	水色	11.16± 3.9	93.0	43.2	4.8	9.0
ベラモーサムインプ*	濃紺	11.24± 11.9	99.8	53.9	5.6	11.7
シープリズム(F ₁)	濃紺	11.15± 4.7	106.7	54.4	5.9	11.9
カサブランカ	白	11.22± 7.9	100.9	57.8	5.3	11.5

注) *基準品種 **1次分枝の小花数

表2 2番花以降の切り花品質及び収穫量

品 種 名	切り花 長(cm)	切り花 重量(g)	側枝数	花数**	収穫遅延 株数***	収穫本数(本/株)		
						年内	総数	70cm以上****
ベラドンナインプ*	90.1	31.9	3.7	9.7	29	1.9	8.7	6.4(74%)
クリブドンビューティー	84.3	28.8	3.7	9.8	16	3.1	11.1	7.3(66%)
スカイプリズム(F ₁)	96.3	37.1	4.0	12.3	0	1.8	11.1	9.0(81%)
ベラモーサムインプ*	117.2	60.7	5.0	16.1	32	1.6	5.4	4.7(87%)
シープリズム(F ₁)	105.4	38.2	4.6	13.4	0	1.1	9.3	8.0(86%)
カサブランカ	108.2	60.3	4.7	13.8	32	2.1	6.4	5.4(84%)

注) *基準品種 **1次分枝の小花数 ***1番花収穫後1~4月の間未収穫の株
**** 70cm以上/総数×100